トップは語る

東北支部

50日間150本の新人研修がAIに負けない人間をつくる!

株式会社アポロガス 代表取締役社長　篠木 雄司 氏

しのぎ ゆうじ／1962年生。慶應義塾大学商学部卒。1986年東邦銀行入行。平支店、国際部、NewYork-trainee、相馬支店勤務などを経て、1993年株式会社アポロガス入社。2007年代表取締役社長に就任。目先の利益や短期的な成果だけを追うのではなく、5年先10年先に活躍できる人財を育てることこそ自分の使命と考え、エネルギッシュに国内外を飛び回る。ユニークな経営手法で、「中小企業庁選 がんばる中小企業300社」「日本でいちばん大切にしたい会社」「日経トップリーダー 人づくり大賞」など数々の賞を受賞。

オープンな姿勢があればたくさんのことを学べる

大学時代、私は幼い頃からの「パイロットになる」夢を実現するために一年間米国に留学しましたが、その経験はその後の人生に少なからぬ影響をもたらしました。1980年代の米国には新しいことを積極的に受け入れ、多様な人々を受け入れるオープンな気風がありました。見ず知らずのアジア人である私に対しても偏見を持つことなく、病気のとき親身になって介抱してくれたり、旅行するときには友人を紹介して泊めてくれたりしました。漠然とした孤独感の中で暮らしていた私は大いに勇気づけられ、希望を持つことができたのです。

米国のように受け入れる器が大きければ、たくさんの人や情報、知識が集まってくる。すると今度はそれが魅力となって、大きな求心力を生む。発展する国にはそんな一連のプラス作用が働いていると感じました。偏見や先入観を捨てて他人を受け入れることで、得られることがたくさんあります。一方向からでは見えないものも角度を変えれば見えてくることがあります。多様な価値観を学ぶことは自らを豊かにし成長させることなのです。

大学卒業後は地元の銀行に就職しましたが、そこでも社会人としての心構えの多くを学びました。退職するとき上司に「篠木君、銀行の商品というのは、お金でも金利でもなくて、やっぱり人なんだよ」といわれたことは今でも心に残っています。「事業は人なり」という言葉は経営者なら誰もが心に刻んでいると思いますが、私は社内外に「当社の強みは人財」であると明言し、社員の人間力を磨く取り組みを行っています。

ユニークな新人研修は人としての視野を広げるため

アポロガスは、私の父や専務である相良元章の父を含めた4人の若手経営者が小規模LPガス販売店を合併・協業して設立した会社です。社名はNASAの有人月飛行計画「アポロ計画」にちなんで名付けられました。アポロ11号が1969年に人類で初めて月面着陸に成功したように、可能性に挑戦しようとする気概を社名に込めたのです。

この挑戦する心構えは現在まで引き継がれており、150項目にもわたるユニークな新入社員研修はその最たるもので、度々メディアにも取り上げられています。例をあげると「ラジオDJ研修」「着ぐるみ研修」「一日警察官体験研修」「お迎え現象を考える研修」「ルールよりも大切なものを考える研修」「勧誘されて勧誘仕返す研修」などです。その風変わりなさまで話題を呼んでいますが、これらの研修は社内外の人と関わり、協力してもらわなければ完結しないものばかりです。そして、研修後には必ずレポートの提出を義務づけています。冗談のような研修タイトルとは裏腹に新入社員にとっては非常にハードな研修なのです。

研修を通して、挑戦すること、様々な価値観を知ること、困難に立ち向かうこと、自分で解決策を見いだすことを学んでほしい。そして様々な体験をすることによって人間性と可能性を高めてほしいと願っています。

今、最適なエネルギーは何かを考え続けたい

社長に就任して3年が過ぎようとした2011年3月11日に東日本大震災が起きました。翌3月12日に社員を緊急召集し「危機的な状況の中では、人も会社もその本性が現れる。そういうことを心に刻みながら仕事をしていきま

しょう」と伝えました。

当社は、LPガスや灯油といった化石燃料の供給を中心に事業を行ってきましたが、震災以降はエネルギー供給に関してあらゆる角度から検討を重ねています。2000年から太陽光発電システムの販売を開始していますが、震災後は分散型のメガソーラー発電事業に参入しました。住宅やオフィスビルの屋上を借りて太陽光パネルを設置し、設置費用は当社で負担しながら、売電の一部をオーナーへ支払う仕組みをつくりました。こうした事業を通じ、原発に依存しないエネルギー社会に貢献していきたいと考えています。

さらに現在は、相良元章専務を中心として、水素社会の実現に向けた水素供給事業への挑戦も始まりました。水素を燃料とする燃料電池自動車(FVC)向けに福島県初の移動式・商用水素ステーションを整備し、2018年3月から郡山市、福島市で供給事業を開始する予定です。

当社の事業は、社会的な課題の解決と企業競争力向上を同時に実現させるCSV※(Creating Shared Value：共通価値の創造)の実践を目指しています。震災後に設立した「フェニーチェほっとリビング株式会社」では、仮設住宅の建設から土地探し、建て替えの相談に至るまで、住宅に関連した一連のサービスを行うことで、被災者のニーズに応えます。また、ガスの供給世帯に向けては、ガスを24時間使用しなかった場合やガスの消し忘れがあった場合に、親族などにメールでお知らせする「あんしんメール」を提供するなど、利用者の利便性と当社の付加価値を同時に高めるサービスを展開しています。

未来を担う子どもたちと福島のためにできること

震災が起きた年の8月、教育問題に詳しい米国のキャシー・デイヴィドソン教授がニューヨーク・タイムズの取材に応じて答えた内容は私の心をとらえました。それは「2011年度に米国の小学校に入学した子どもたちの65％は、大学卒業時には今は存在していない職業に就くだろう」というものです。突拍子もない発言のようですが、考えてみれば、インターネットや携帯電話の普及も、AI技術の実用化も、それらが実現する十数年前にはまるで夢物語で誰も想像していませんでした。日進月歩というより時進日歩と例えたほうが当てはまるような現代の科学技術のスピードでは、今は想像もできないような職種が次々に現れることが十分考えられます。

そうしためまぐるしい変遷の世の中で、どのような経営戦略をたてるべきなのか。その答えのひとつは、やはり「AIに取って代われない人財を育てること」だと思います。状況が変化しても慌てず悲観的にならずに対処する知恵を持つ人。常に周りを慮り、気配りや心配りの中で仕事を進めていくことのできる人。自分の可能性を信じて苦しくても挑戦を続ける人。こういう人財を結集させることが会社の発展にとって不可欠なのです。

人財を育てるという意味から、自社の社員のみならず、福島の未来を担う子どもたちもサポートをしていきたいと考え、「アポロしあわせ基金」を設立し、幼稚園や小学校に遊具や絵本を送る取り組みを行っています。また、震災によって校舎が損壊した私の母校、県立福島高校に対しては、生徒を勇気づけたいと思い、梅の校章にちなんだ「平成の飛梅プロジェクト」を立ち上げました。これはOBや各関係先の皆様のお力添えをいただいて、太宰府天満宮より門外不出の梅の木5本を譲り受けるという幸運に恵まれました。

当社は総合エネルギー企業として地域の方々に各種エネルギーを提供しておりますが、これからも、福島を、日本を元気にするために日本一の「元気エネルギー供給企業」として挑戦を続けていきたいと思います。

※2011年、経営学者のマイケル・ポーター教授がハーバード・ビジネス・レビューで提唱した概念。従来のCSRが本業の周辺での活動であったのに対し、CSVは社会的価値の実現を通じて事業価値や競争力を確立するというもの。

地域に“元気エネルギー”を供給します

〈座右の銘〉

艱難汝を玉にす

（かんなんなんじをたまにす）

苦労や困難に立ち向かうことで人は成長し向上する。西洋のことわざ Adversity makes a man wise.（逆境は人を賢くする）の意訳といわれる。

company profile

株式会社アポロガス
●所在地：
〒960-0201
福島市飯坂町字八景6-17
TEL. 024-542-1122（代）
http://www.apollogas.co.jp/
●設　立：1971（昭和46）年
●資本金：2,000万円
●売上高：20億円（2016年5月実績）
●従業員数：51名（2016年4月実績）
●グループ企業：ほっとリビング、アポロエナジー、フェニーチェほっとリビング株式会社、株式会社アレックス、ふくしま新電力株式会社